



2022年10月9日主日連合礼拝メッセージ 日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【信仰は選択です！】

聖書本文:ヨシュア記24章14~18節・今週暗唱箇所:ヨシュア記24章15節 説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！日中の寒暖差が激しくなって来た一週間みんなお元気でしたか。また始まった一週間みなさんの体と全ての営みが守られ、祝福されますように心からお祈り申し上げます！

【教会設立19周年(10月30日)案内とご協力の願い！】

今年10月で、クリスチャンプレイズチャーチは設立19周年を迎えることになりました！毎年10月の第1週か、第2週主日に、設立感謝礼拝を献げましたが、今年は特別30日(主日2部礼拝の時)に、一緒に「設立19周年感謝礼拝」を献げることになりました！特に今年設立感謝礼拝の時は、礼拝中「感謝の賛美」を献げたいグループ3組程度募集(家庭・牧場・アワナ等・棚橋真之介執事に)します。また、各牧場毎で一人ずつ、今まで我らの教会で信仰生活をしながら「感謝の証し(3分)」を分かち合って下さるようお願い致します。そして、「無人バザー会(担当:淑英先生・レイディ執事)」も開き、その収入全ては、教団レイベルの開拓教会の中鹿児島にある「鹿児島いずみ教会の会堂建築の為の献金」として献げようとしています。なので、今回のバザー会為、みなさんの家庭の中使っていない新品、中古品何でも構いませんので、出して下されば、必要な教会家族が安く買える事で助け合うことにもなると思いますので、是非ご協力をお願いします！また、礼拝後、「愛餐会」を開き、礼拝参加者全員の弁当を注文し、教会1-3階に分かれて各牧場毎や自由に食べながら交わる時も持ちますので、各牧場の牧者は、当日弁当注文の為、必要な大人と子ども人数を事前に、川副浩太先生にまで教えて下さるようお願い致します！

代表的なキリスト教哲学者であり、スイスでラブリー運動を導いていたフランシス・シェーファー(Francis Shaffer)という博士は、現代の人たちが19世紀から20世紀に変わる間、「絶望の線を越えた」と指摘しました。つまり、歴史上一番危険な変化が起こってしまったとの指摘でした。

つまり、19世紀の時までも、人たちにはクリスチャンが関係なく、みんなが共有出来た絶対的な価値観がありました。たとえば、十戒の5戒以下書いてあるように、「あなたの親を敬いなさい。殺人してはいけない。姦淫してはならない。嘘をついてはいけないなど」を言うと、信じていない人々でも当たり前「それは確かに人として守るべきその通りだ。」と同意することが出来ました。

しかし、20世紀に入り、いわゆるポストモダン(Postmodern)と言われる時代になってから、今日の多くの人々はそのような絶対的な人の価値観は、まるでそれは古いものだったかのように放棄されています。例え、絶対的なことは存在しないと。絶対的な神様、絶対的な価値観、絶対的な真理、絶対的な倫理、絶対的な愛などすべてが人によって、自由であり、考え方によって違うのだという考え方です。

(例え日本の場合には1947年10月26日の刑法改正によって、姦通罪は廃止された)。これによって人々から見れば、とって格好良く、さらに人たちは束縛されず、自由になったように見えますが、かえて私たちの子供たちは何が一体正しいのが、間違いなのか、混乱し、家族の主婦たちや夫たち、子供たちも、さまよってしまう時代となってしまいました。私は今日の家庭の混乱はこのような時代的な流れにも家庭崩れの原因があると思っております。ですから健康な家庭、祝福される家族となるためには周りの環境や外部的な形ではなく、聖書の価値観と信仰と信頼への回復から立てあげられるべきだと信じます。そうです。祝福される健康な家庭は単純に雰囲気や環境を変える程度では出来ません。神が建てて下さった本来の家族、家庭への価値観に戻る根本的な土台作りが緊急に要求される時点ではないかと思えます。

今日は、ヨシュア記の最後の箇所である24章の内容です。今日の本文の内容は、神様の人であるヨシュアとイスラエルの民が、ついに約束の地であるカナンに入ってから、イスラエルの民たちに向って彼の人生最後の遺言のように、イスラエルの民たちに神の祝福を受け続ける為に、心に刻むべき大切な神のメッセージを伝えています。

ある意味で、今日ポストモダン時代と似てる面があります。

イスラエルの民たちが40年の長い荒野の生活の中創造主の真の神と神の真理の御言葉のみを信じて来ましたが、新しい約束の地カナンに入ってから、表では神様を信じていましたが、新しいカナンの多くの偶像を拜む文化、神の御言葉と反するカナンの人々の価値観、風習、考え方に接触しながら、混乱したり、新しい異邦の偶像や宗教、文化、価値観に魅力を感じ、揺らぎ始めて混乱と混沌の中にばらばらになっていたのです。

一方では神様に仕えながら、もう一方はエモリ人の神々や、エジプトの神々、メソポタミヤの色々な偶像に仕え始めたのです。二重、三重にひどく揺らいでいたイスラエルの民たちの信仰の姿を見ながら、ヨシユアは深刻性を感じ、再び信仰の決断と選択を促さなければなりません。指導者であったヨシユアは生涯を終える前に遺言のようなメッセージをイスラエルの民たちに訴えます。ヨシユアは自分の最後の残りの命の火種をつけながら、イスラエルの民たちに続けて神の見守りと導き、さらなる祝福を受ける為に信仰の選択の緊迫性を訴えたのです。

<シェケムという場所>

今日の本文で、ヨシユアは「シェケム(Shechem)(24:1「ヨシユアはイスラエルの全部族をシェケムに集め、イスラエルの長老たち、かしらたち、さばき人たち、つかさたちを呼び寄せた。彼らが神の前に立ったときに、ヨシユアは民全体に言った。」)」という所にイスラエルの指導者たちはじめ、全民を全部集めて大切な神のメッセージを語ります。

旧約聖書の中で、このシェケムという場所は、[ゲリジム山]と[エバル山]の間の狭い山道として、イスラエルの歴史をさかのぼると、信仰の先祖であったアブラハムがカナンに着いて、はじめに祭壇を築き上げたところ(創世記12章6-8節)です。そして、後にヤコブがパダン・アラムからの帰途する時、シェケムの前で宿営しながら、神様の御前で祭壇を築いた(創世記33章20節)ところでもあります。そして、信仰の人であったヨセフの骨が埋められた場所(ヨシユア記24章32節)でもあります。そして、神様からいただいた律法をヨシユアがもう一度朗読し、御言葉を解き明かした場所がこのシェケムでした。

このように、イスラエルの民たちにとって、このシェケムという場所は、神様の民たちが何かの決断、選択をする時に覚えられ、歴史的にもとっても大切な場所であったことがわかります。今イスラエルの民たちには新しいカナンの中で、これから大切な信仰の選択をしなければならない課題が提示されています。つまり、神様を選ぶか、他の色々な偶像の神々を選ぶのかの岐路(きろ)に立たされているイスラエルの民たちを、このシェケムに集めたのです。

そして、ここでイスラエルの指導者であるヨシユアは、最後の全ての力を尽くし、エネルギーをしばって真剣に、イスラエルの民たちに「あなたがたの仕えようと思うものを選びなさい。」と選択を迫(せま)りました。今日のヨシユア記を通して神様が求めておられる信仰の対象への選択についてともに考え、我々ももう一度信仰の点検と信仰の再確信、再決心と再献身ができる大切な時間となりますよう切にお祈り申し上げます。

1.信仰の選択の自由(15節「あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。」)

我々が信じる真の創造主の神様は、その神様を信じることについて、我々に強制的にさせるのではなく、我々に真の神を信じるか、断るか選択の自由と権利を与えてくださっています。神様は、自ら神を信じる選択をし、信じる人々の信仰を望んでおられ、喜ばれるお方であることが分かります。ここで、資格のない罪人である人々が、神様を信じるかどうかの選択の権利と選択の自由意志を授けてくださったこと自体が、どれほど人に命を与え、造られた神様がどれほど人を愛しておられるのか、断面的に表れているところではありませんか。

ヨシユアはイスラエルの民たちに、真の神様であられても、その真の神様を信じることを強制せず、各自自ら自由に選択するように促しました！当時神様はイスラエルの民たちにされたように、こんにちの我々にも、信じ仕えようとする存在を自ら自分で選ぶようにと言われます。信じて、頼り、仕えるための存在を選ぶのです。

私も自ら、イエス様キリストを私の救い主として、心から受け入れ、聖書の真の神様を信じ、頼り、仕えようと選んだのです。みなさんもほとんどそうではありませんか。

実際、人間は何か信じ頼り、仕えなくては決して自分の力だけでは生きることができません。聖書の真の創造主神様を拒んだ人は、その神様の代わりに、この世にあるほかの偶像を自分の神として頼り信じることを選択しているでしょう。

“神”という単語を一番一般的に宗教的な意味で定義すると、「人間が人生の諸問題において究極的な解答として信じ、頼れる全知全能的、絶対的な存在」だと言えます。

愛するみなさん！世間の人たちは通り一編に、考えて見ると、そのような神的存在が多ければ多いほど良さそうだと思います。結局長い人類の歴史の中で、人間によって、多くの神々を作りあげ出しました。インドには数億の神々が存在し、私たちが住んでいるこの日本だけでも八百万(やおよろず)神々を作り上げ、拝んでいます。新約聖書使徒の働き17章16節から読んでみると、使徒パウロがギリシャのアテネに行った時に、町中では多くの神々の像や彫刻(ちょうこく)が建てられていて、人々が拝んでいましたが、その神々が一体どんな神なのかすら、知らず‘知らない神々に’祭壇を作って拝んでいたと記されています。

ですから、三位一体の真の神様(創造主なる父なる神、御子イエスキリスト・聖霊の神)は、全人類がさまようことなく、

戸惑うことが一切ないように、信じるべき三位一体の真の神様の存在を、聖書を通してどんな時代でも、だれでも分かり、否定できないように明らかに聖書に書き記し、教えて下さっているのです。そしてご丁寧に、人が決して過ちを犯さず、間違いないように、その三位一体創造主なる神以外は、すべてこの世の中神々の存在は、人によって作られ、捧げられている神々の存在であり、それは真の神ではなく、「偶像の神々」であることも明らかに教えて下さっているのです。

聖書に書かれている創造主の三位一体の神様は、人によって作られた存在ではなく、「自らおられるお方」、「被造物ではない、すべてを造られた創造主」だと記されています。出エジプト記3章14-15節には創造主なる神様はモーセにご自身がどんなお方であるかをこう教えて下さいました。

「神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエルの子らに、こう言え。『あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、あなたがたのところに私を遣わされた』と。これが永遠にわたしの名である。これが代々にわたり、わたしの呼び名である。」ここで、わたしは、『わたしはある』という者である。という意味は“I am that I am”、あるいは“I am who I am”、あるいは“I will be who I will be”つまり、「わたしは自分で自ら以前も、今も、これから永遠に変わらずおられる存在である」真の神という意味であります。その意味でヘブル語原語の聖書では「わたしはヤウエ(YHWH)・エホバ(JHVH)である」という言葉で書かれているわけです。

創世記1章と聖書の最後の黙示録にも読んで見ますと、自ら変らず永遠におられる神は人も、全ての万物も造られた全能なる創造主の神様(エロヒム・エルシャダイ)であられる事も教えて下さっています。(創世記1:1-「はじめに神が天と地を創造された。」・ヨハネの黙示録4:11「主よ。私たちの神よ。あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を創造されました。みこころのゆえに、それら(万物)は存在し、また創造されたのです。」)

この聖書の創造主の神について、ヨハネの福音書17章3節に、「永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」と記されているように、この神を正しく知り、信じることによって、真の神は、信じるすべての人に神の救いと、神の永遠のいのちを与える祝福を与えて下さることを聖書を通して、明らかに約束されています。

出エジプト記20章3節-6節で、神様が以前モーセを通してイスラエル民たちと家庭を祝福する為に与えられた10戒の中一番最初に出ている1-2の戒めを通して真の神を信じる時にちゃんと注意しなければならないことまで教えて下さいました。「3あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。4あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。5それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、6わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからです。」

しかし、それにも関わらず、真の神様は、人を無理やり、強制的に真の神様を信じられるようにさせません。それは、真の信仰でも、心から神を愛することでもないからです。

それによって、残念ながら、人類の歴史以前の時代から、今日までも、こんなに明らかな創造主なる真の神様が聖書にちゃんと知られているにもかかわらず、それすら知らず、聞いたこともないため、あるいは自ら真の神を背き、自身の選択によって、さまざまな偶像の神々を作って拜んで来ています。

アメリカの有名な聖書神学者だったルイス・ベルコフ(Louis Berkhof)は「人間は治療不可能な宗教的な (incurably religious)存在」だと。つまり、我々人間は限界があり、それを知っているため絶対的な存在への信仰を持つとうとする存在だという指摘です。それに自分は何の神も信じない、何の宗教も持たないといっている人々でさえも何かの信じ頼る存在何かを持っている存在だということでしょう。

愛するみなさん！他色々な神々を信じている人々の場合を見ると、自分たちが必要な時に助け、いつも自分が願っている通りかなえてくれる存在だけで、その以外は自分の生活や人生に関与(かんよ)し、干渉(かんしょう)する神はいらないと思っているのではないのでしょうか。これは矛盾に違いありません。そして、そのように人間が望み通り、ただ人間に無条件的に従ってくれる神が真の神なのか疑問に思わざるを得ません。

神とはいつも人が信じて頼る存在だと申し上げました。ドイツの宗教改革者であったマルティン・ルター(Martin Luther)先生は、“今自分の心の中で頼りにになっているものが自分の神になっているのだ。”だと指摘しましたが、みなさんにとって、今心中まことに信じて頼っている存在は何でしょうか。

もしも、いまだにはっきりと信仰を決めてないまま迷っておられる方々がいらっしゃるなら、神を選ぶ時、このような神を選ぶことをお勧めします。

①あなたを救える神を選んでください。あなたが信じる神があなたを救い、罪からまことに赦し、自由にさせないなら何の意味がないからです。

②全能の力のある存在をあなたの神として信じて下さい。人によって作られた無力なものを頼らないでください。

③みなさんの人生に関心をもっておられる人格的な神、つまり、みなさんの人生にともにおられ、愛と憐れみをもってみなさんをいつもかえりみ、導いて下さる神を選んでください。

今日の本文17-18節で、ヨシュアの信仰の選択を勧めるメッセージを聞いたイスラエルの民は、今まで経験して来た神様を思い出し、ともにこう告白します！「17私たちの神、主は、私たちと私たちの先祖たちをエジプトの地、奴隷の家から導き上られた方、そして、私たちの目の前であの数々の大きなしるしを行い、私たちが進んだすべての道で、また私たちが通ったすべての民の中で、私たちを守ってくださった方だからです。18主はあらゆる民を、この地に住んでいたエモリ人を私たちの前から追い払われました。私たちもまた、主に仕えます。このお方が私たちの神だからです。」

ヨシュアが今日イスラエルの民族に提示する聖書の神様は、唯一救いの神様であり、全知全能なる神様、我々をここまで守り導いて下さったお方であることを証ししています。聖書は今日我らにも“あなたがたは仕えようと思うものを確かめ、選びなさい”と促しています。

“わたしのほかに”という表現は本来の原文だと“わたしの前で”という意味であります。真の神様の御前で、最近私の心の中では何に頼って、信じているのか考えてみましょう。

神様は無理やりではなく、強制でもなく、今日その信仰の選択の自由意志を人々の手に渡し、その報いと責任をも、人が自分の人生と家庭で取るさせてくださっているのです。みなさんはだれを信じていますか。だれを信じようとしていますか。

2. 信仰の選択の緊迫性(15節「今日選ぶがよい」)

神様はヨシュアをとおして神様の民たちに信仰の対象に対する選択の緊迫性を知らせてくださっています。

今日!今!自分たちの仕えようとしているものを選びなさいということです。明日、もしくは5年後に、10年後に選びなさいと言われませんでした。いまそれを決めなさいとその緊迫性を強調されました。これは後回しにできない重大なことです。

例)中世時代、ドイツの宗教改革者であったマルティン・ルター(Martin Luther)先生がメッセージ中語った有名なたとえ話があります。ある日、サタンの部下たちは人々を惑わすために地上に行く前に会合(かいごう)を開きました。

サタンは部下たちに“おまえらはどんなやり方で人間を惑わすつもりか”と聞きました。

それにある悪霊がこう言いました。“私は人々の思いに神何かいないように疑いを入れます。”

すると、サタンは“今までずっとその戦略を使って見たが、それはあまり通じなかった。人間の思いには神が生きていることを否定できない-宗教は否定するが、神は否定できない、信仰の本能があるためだ。だから、人々はまだ神を求めている情熱を持っているはずだ。その戦略はもう正しくない。”断れます。

そしたら、ある悪霊は“わしは人々の心に [地獄なんかない]という思いを入れます。それで人間を安心させているうちに、地獄に連れていけますから。”と言いました。サタンは“いや、その戦略も通じないだろう。人間は自分たちが生きているこの世こそが恐ろしい地獄であると思っているので、地獄を信じるということはそんなに難しいないだろう。だからそれも通じるはずがない。”すると、ほかの悪霊がこう言い出します。“じゃ、そうするなら、わたしはクリスチャンをこう攻めて見ます。彼らに耐え難い苦難と迫害を与え、この意識を与えます。イエスを信じれば、むしろ災いに会い、必要なら、彼らを殺しちゃいます。”それを聞いたサタンは、びっくりして引きとめながら、“それは私たちがもう完全に失敗した戦略だ。それは、もう長い歴史の間、数多くのクリスチャンを迫害し、殺して来たが、そのたびに、クリスチャンはむしろ主のために受ける苦難と迫害を喜び、栄光として受け入れ、さらにその姿を見た、人々がもっと大勢信じて、救われちゃったから”すると、隅っこにいたある悪霊が手をあげて言いました。

“私には画期的な戦略があります。それは、そんなに急ぐなです。今いそいで信じなくても良いと。今じゃなくても後、今

度、ゆっくり信じて大丈夫ようにとささやきます。“突然、地獄からはやかましい拍手がわき起こりました。サタンも大満足し、笑顔で“そのとおりだ！それが一番だ！わしらが、その戦略で今まで、たくさんの人間たちをとらえたのではないか！よしその通り続けよう！”

聖書には“あなたがたが仕えるものを今日選ぶが良い。”、「神は言われます。「恵みの日に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。(コリント第二6:2)」と書かれています。神様は我々に神様を信じる信仰の選択を後回しにしてはいけなしいし、今日！今！現在信じ仕える神を選択することは、人生の中一番すべき重大なことである、後回しになってはいけなしい今決めなければならない緊迫性の事であることを教えて下さっているのです！

3.信仰の選択の公開性

「**本文15主に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は主に仕える。**」

今日ヨシュアをとおしてくださるメッセージから知らされることは、神様を信じるこの信仰の選択について、公開的でなければならないと言うことです。ヨシュアはイスラエルの民の前で公(おおやけに)に信仰の選択を要求しました。だれもが結婚する時、一番大切な一つは、式を挙げるかどうかより、そばにいる人を新郎として、新婦として受け入れ、信頼し、一生愛することを人々の前で、公に告白し、分かち合い、誓約することでしょう。もし、最初自分の妻や夫になる存在があまりにも恥ずかしくても、だれにも言いたくない、言えない、隠したいとするなら、それは本当の愛でだと言えるでしょうか。人生の中自分の両方とも自分の伴侶者として、一番大切な存在であり、ほこらしい愛する存在なので、公に周りに伝え、祝っていただきます。

愛する信仰の家族のみなさん！一生をともにする伴侶者を公に公開し、選ぶのであれば、人を祝福し、永遠のいのちを与えておられる真の神様を受け入れ、信じるのが正しいと信じ、その信仰が本気であるならば、自身の信仰の選択を公にしない理由はあるのでしょうか。

ある方々は自分がクリスチャンであることを周りの人々が知らないほうがましだと思つ方もたまにいます。別に知らせたがらなく、なおさら公に表わしたがない傾向があります。しかし、みなさん！我々が信じる神様がまことに生きておられ、まことの神様であり、我々が選んだ信仰が偽りではなく、まことの神様へのまことの信仰であるならば、誰にでも隠す必要なんかあるわけがないのではないのでしょうか。みなさんはみなさんの周りの人々がクリスチャンであることを知っていますか。イエスキリストはこれに対してこう語って下さいました。

マタイの福音書10章32-33節に、「32ですから、だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。33しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者は、わたしも、天におられるわたしの父の前で、その人を知らないと言います。」

「**だれでも、わたしとわたしのことばとを恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びてやって来るとき、その人を恥じます(ルカ9:26)、「8あなたがたに言います。だれでも人々の前でわたしを認めるなら、人の子もまた、神の御使いたちの前でその人を認めます。9しかし、人々の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。(ルカ12:8-9)」**

4. 選択の出発点と家庭の大切さ(15節「ただし、私と私の家は主に仕える」)

“あなたがたが仕えようと思うものを、今日選ぶがよい”と促した、ヨシュアは続けてまず、自分の信仰の決心をします！これは選択の決心の告白です。ヨシュアは説教だけで終つたのではなく、自ら自分はどんな選択をしたのかを公に告白しています。“**私と私の家とは、主に仕える。**”

まずヨシュアの信仰の告白は、“私”から始まります。信仰の選択はまず、自分から始まらなければなりません。

信仰は私の選択が大切です。私の決断からはじまります。

信仰はほかの人ではなく、人脈、血縁、他の人からではなく、自分！私から始まらなければなりません。神様の前での信仰は、個人的な自分の決心や決断からのものです！

しかし、ここで、注目すべきなのは、ヨシュアは自分だけが神様を信じるその信仰で満足していません。彼はまことの信仰の尊さと祝福を知っていたため、信仰の祝福を愛する家族と分かち合いたがり、彼の望みと祈りが込められています！そういうわけで、ヨシュアだけではなく、彼と彼の家みんなが、神様に仕えることをそうなるように祈り、信じて告白して

います。愛する信仰の兄弟、姉妹のみなさん！ 神様は家庭を大切に思われます。旧約の創世記から新約の黙示録まで聖書は家庭の大切さを強調しています。旧約のノア時代にこの世が悪に満ちた時、神様の恐ろしい裁きから、信じたノアと彼の家族だけは救ってくださったのを聖書から見るすることができます。

パウロとシラスがピリポの牢屋で牢屋を守っていた看守に“**主イエスを信じなさい、そうすればあなたも、あなたの家族も救われる**”と言われました。神様の御言葉から、真の神様は、信じる一人ひとりだけではなく、信じるその人を通して、大切な全家族の救いをも与えることを喜ばれ、約束されている神様の御心を知ることができます。

ある詩人は“**人間が樂園を失った以降、この樂園と一番似ていることがあれば、それは家庭だけだ。家庭を失った人はすべてを失った人だ。**”と言いました。家庭は人が所有できる一番美しい信仰、愛、平安があるところです。

天国というところは、真の神様がすべてを統べ治めておられるところではないでしょうか。

我らの家庭が本当に樂園のように、天国のようになるためには、神様が我が家庭をいつまでも治めて下されば、天国のようになれるのではないのでしょうか。

神様はこの家庭に祝福を注ぎたがっておられます。この家庭に永遠のいのちを与えたがっておられます。

神様は信じるみなさんの家庭の主となり、統べ治め、神の御国がみなさんの家庭にも訪れるように願っておられるのです。今みなさんの家庭はだれが治めていますか。サタンが家庭を治めているとしなら、家庭はもじ通り地獄でしょう。反面、神様が家庭を治めておられるなら苦しみ、悲しみの多いこの地においても小さい天国を味わえると信じます。

家庭は幸福と救いの出発点です。家庭の尊さを悟っていたヨシユアは訴えます。“**私と私の家とは、主に仕える。**”

今日ヨシユアは仕えようと選んだ神様はどんな方ですか。17節をみてみてください。「私たちの神、主は、私たちと私たちの先祖たちをエジプトの地、奴隷の家から導き上げられた方、そして、私たちの目の前であの数々の大きなしるしを行い、私たちが進んだすべての道で、また 私たちが通ったすべての民の中で、私たちを守ってくださった方だからです。」と記されています。その神様は我らの贖い主であり、全能の神様であり、守って下さるお方です。

愛するみなさん！ 祝福される健康な家庭の秘訣は、意外ととてもシンプルで単純です。

人の限界あり、変わりやすい、不完全な人の考え、感情と経験、基準によって支配される家庭ではなく、全能なる神様の御手の中で守られ、いつも変わらない神様の真理の御言葉の生きる指針とさせ、揺るがない信仰の土台の上に建てられたその家庭だと信じます。

どうやってそのようになりますか。私の信仰から確かめ、愛する我々の家族にも真の神様を信じる信仰を受け入れることだけです！それで十分です！まだ、みんな神様への信仰を持ってないなら、私と私の家が真の神のみ信じて従えるように諦めないで、そう信じて祈り続けませんか。

それでは我々はそのまことの神様をどうやって仕えましょうか。

本文14節に「**今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕え。**」と言いました。ここで**誠実**ということばは「**分かれぬ心**」という意味です。**真実**ということばは「**偽りなく、移り変わりがぬい心**」という意味です。

ヨシユアは若い時に神様を選びました。そして死ぬ時まで誠実と真実をもって神様に仕えました。そして、神を信じた者はみんな神の御国で神様の栄光のうちに神に仕え続けながら、永遠に神と共に生きることを聖書は約束されています。

「**16彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこともなく、太陽もどんな炎熱(えんねんつ)も、彼らを襲(おそ)うことはない。17御座の中央におられる子羊が、彼らを牧し、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。**」(ヨハネの黙示録7:16-17節)

今も遅れていません。今、今日からもう一度、共に創造主なる真の神様の導きと御言葉に従って、その神様のみを信じて行きませんか。みなさん、“天国を神の国だと言われますが、天国っていったいどんなところ？”と聞かれる子供たちに、“天国はね。創造主真の神が永遠にすべてを治めておられるところだよ。そして、私たちの家見たいなところなんだ。”とも言えるクリスチャンプレイズチャーチ信仰の全家庭となりますように。

残りの今年中にも我ら共に分かれぬ誠実さと、移り変わりがぬい真実な心をもって、神様を信じ、仕える事を改めて決断し、選択する私と私の家となって、神様がいつも共におられ、統べ治め、助け、さらに祝福されるクリスチャンプレイズの全信仰の家族と家庭とように神の祝福を切にお祈り申し上げます。アーメン！